**知能情報システム創成MATLABコード仕様書**

**Oneshot.m**

実行を押すと、コード先頭で設定したGapsizeとAngleのランドルトC環がサブモニターに表示。

※Gapsizeは切り欠き幅のピクセル

※切り欠き幅の位置を指定する変数Angleは鏡を使った実験を想定し左右のみ反転。　上(360)　下(180) 左(90) 右(270)

**Task1.m**

実行を押すと「被験者番号、セッション番号、繰り返し回数（初期５）」を入力するダイアログが表示され、「OK」を押すとファイル選択画面に移行し、実験終了後に結果のファイルを出力。結果のファイル名は「Task1\_被験者番号\_セッション番号\_MMddHHmm.xlsx」

※ファイルの中身は切り欠き幅の種類が左１列に記載。Task1Parameter.xlsk参照。

※出力ファイルの内容は、左からGapsize, Angle. Answer（被験者の回答）,Correct(正誤)　以下のコードも同様

**Task2\_LimitDown.m**

コード先頭で最大値を設定。実行を押すと実験スタート。各Gappixelサイズごとにランダムな方向を一度だけ表示。一回でも失敗すると実験を終了し、直前までの正解していたデータのみ出力。一度も間違えなければ、40回目で終了しすべてのデータを出力。結果のファイル名は「Task2\_LimitDown\_被験者番号\_セッション番号\_MMddHHmm.xlsx」

**Task2\_LimitUp.m**

コード先頭で最小値を設定。実行を押すと実験スタート。各サイズごとにランダムな方向を表示。正解の場合は同じサイズで別の方向を表示し、これも正解すると実験終了（２回連続正解で終了）。不正解の場合は次のサイズのランドルトC環を表示。一度も正解しなければ、40回目で終了しすべてのデータを出力。結果のファイル名は「Task2\_LimitUp\_被験者番号\_セッション番号\_MMddHHmm.xlsx」